

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービスこころライフ		
○保護者評価実施期間	2025年12月 1日 ～ 2025年 12月 16日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38 (回答者数)	30
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日 ～ 2025年 12月 16日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムが固定化されないようにしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週によってプログラムを変えている。(1,2週目は作業トレーニング、3週目はバランス運動、4週目は自由時間)</li> <li>・作業トレーニングの内容を定期的に変えている。また、ビーズ通しなど同じ作業内容でも、ビーズの穴の大きさを変えるなどして個々に合わせた難易度の作業に取り組んでもらっている。</li> <li>・地域の作品展出展に参加し、定期的に制作活動をする機会を設けている。</li> <li>・季節のイベントも定期的に行い、1年の季節を楽しめるよう工夫している。</li> </ul>	<p>今まで以上に、経験ができるようなプログラムを立案する。また実行振り返りを繰り返しながら、有意義なプログラムができるよう努める。より個々の成長につながる作業内容になるよう、個別支援計画の活用、学校での活動内容のヒアリング、保護者との情報交換を行なう。</p>
2	地域のイベントに積極的に参加している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のフリーマーケットへの出店や子ども食堂のお手伝い、農作業など、地域の人と関わる機会を多く持てるようにしている。</li> <li>・地域のイベントや飲食店に行く際も、言葉遣いなど事前に目標にしたいことを子ども達に共有し、社会性が身につく経験になるよう努めている。</li> </ul>	<p>引き続き、子ども食堂のお手伝いを継続させてもらいながら、様々なイベントの情報をキャッチするようにする。土日が中心になるため、長期休暇などは平日も機会を持てるようにする。また単に参加するのではなく、こども自身が目標を立てて振り返りを行ない次に繋げるサイクルで取り組めるようにする。</p>
3	日々の活動内容を保護者の方へ発信、伝えている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の活動写真を公式LINEを使って個々にお送りしている。</li> <li>・インスタグラムで定期的にイベントの様子を発信している。</li> <li>・毎日の送迎時に子どもの様子を保護者と共有している。</li> <li>・支援に生かせる内容や共有事項は、都度事業所職員に周知するようにしている。</li> </ul>	<p>引き続きLINEや電話を活用しながら、保護者の方との情報共有を徹底する。</p>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士が交流する機会について	全曜日営業しているため、保護者会などの開催する時間が取りづらい。	来年度、子どもたちの活動発表も兼ねて保護者会を予定しており、準備をすすめている。
2	事故防止、非常災害への対策、緊急時対応などの計画と訓練について、保護者への周知	利用する子どもの頻度や曜日によっては、参加が難しい場合がある。参加した子どもの保護者には訓練の詳細を伝えているが、全保護者へ周知ができていない。	HP、公式LINEを利用して保護者への周知を徹底する。また保護者には、予想される子どもの反応や行動を聞き取り、計画に反映させる。また、子ども達の目につくところに災害時のマニュアルや避難経路を掲示して、職員も子ども達も落ち着いて行動できるようにする。

3	子ども達にとって、ものの場所や片付け方が分かりやすい環境づくり	日々子ども達の活動アイテムや制作材料が増える。ものが増えると分類分けが曖昧になり、子ども達が片付けしづらくなる。	日々必要なものを精査する。引き出しや入れ物を用いてカテゴリー別に分け、カテゴリー名を記載する。子ども達が事業所のものを使用しやすく片付けやすい環境づくりをする。
---	---------------------------------	--	--

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後デイサービスこころライフ

公表日 2025年12月29日

利用児童数 38名

回収数 30名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	30					ものが増えてスペースが狭くならないよう、整理された状態を保ちます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	28			2	・職員の方がやめられり新しく入ったりしているの、手紙などで教えてほしい	スタッフの入社、退社があった場合は送迎時に挨拶や公式LINEでの案内します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	28			2	環境についてはわかりませんが、写真を拝見するとキレイに整備されていると思います。	現状の状態を継続し、視覚的優位の利用者にも分かりやすい工夫をします。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	30					毎日の掃除、整理整頓、また感染症対策を徹底し心地よく過ごせるよう努めます。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	29			1		定期的な職員間で意見交換、都度情報共有をして、個々に合わせた質の高い支援ができるよう努めます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	29	1				定期的な支援内容とプログラムに乖離がないか話し合い見直しを行います。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	30				・細かいところまで見て下さっていることが計画に表現されています。ありがとうございます。	保護者や関係機関との情報共有、また利用者の日々の様子を踏まえて計画書を作成します。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	27	1		2		利用者の様子を観察して分析し、支援内容を設定します。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	28	2				常に放課後等デイサービス計画と乖離がないか見直し、支援をおこないます。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	28	1		1	・いろいろな活動ができて嬉しいようです（制作も好きです） ・作業内容も色々変えて取り組んでもらっている様です。	作業トレーニングの内容も個々に合わせて内容を変えます。また引き続き、制作や運動、イベントなど週によって異なる経験ができるように職員間で計画します。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	20		2	8	こども食堂の活動、楽しいようです。	引き続き、子ども食堂やフリーマーケット出店など、地域の方との関わりを大切に社会と繋がる機会を多く持ちます。土日が中心になるため、長期休暇など平日も機会をつくれるよう努めます。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	30					引き続き、安心してご利用いただけるよう説明を徹底します。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	30					引き続き、安心してご利用いただけるよう説明を徹底します。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	20	2	4	4	・保護者間の交流会があれば嬉しいです。	必要があれば、対応してまいります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	30				・帰りに話す時間を作ってもらっているの、都度話したいことは共有できているのではないかと思います。	引き続き、電話やメール、送迎時などに密に情報共有を行います。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	30					保護者とコミュニケーションを取りながら、必要に応じて支援してまいります。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	30				・本人も心を開いて、何でも話をします。いつもありがとうございます。 ・皆さま、優しく丁寧に関わってもらっていると思います。	日々の関わりの中で、こどもとご家族にとって、安心して相談できる信頼関係を築けるよう努めます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	20	4	5	1	・保護者間の交流会があれば嬉しいです。	来年度予定で計画中です。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	27	1		2		安心して相談いただけるよう、定期的に体制整備の確認を行い、子どもや保護者に周知してまいります。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28	1		1		引き続き、些細なことでも気兼ねなく相談いただけるよう、メールやLINEの活用、送迎時のコミュニケーションを大切にします。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	28			2	・見てないです。すみません。 ・わかりません。	個人情報の取り扱いに十分注意しながら、引き続きHPやSNS、公式LINEでの発信をする。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	30					引き続き取り扱いに十分注意する。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	28	1		1	・わかりません。	定期的に職員間でマニュアルの見直しを行います。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	23	1	1	5	参加日数が少ないので、いない日になっているかもしれない。	引き続き定期的な訓練を実施いたします。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	28			2		定期的に安全の見直しを行い、周知いたします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	28	1		2	・わかりません。	発生した際はマニュアルに則り、速やかな連絡を徹底いたします。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	30				・行き届いたサポートで安心して過ごせています。感謝しています。	子どものからの意思表示を見逃さずに、一方的なコミュニケーションにならないよう支援する。また、日頃から職員間で子どもについての情報共有を行い、きめ細やかな支援を行います。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	30				・いつもたのしみにしています。 ・どの先生がお迎えにいらっしゃるか、先生方のシフトまで頭に入っていて、大好きな先生方とお友達と楽しくて仕方がないようです。 ・会話はできませんが、嫌がることは一度もなく楽しく通えていると思います。 ・子どもは毎日行きたいそうです。	引き続き、子ども達が安心感と充実感を持って過ごせるよう職員間で支援の振り返りや見直しをおこないます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	30				・あたたかく娘のごときを見守っていただき、いつも嬉しく思っています。 ・いつもありがとうございます！ ・細やかな支援と思いやり、温かいお声掛けなど、本当にありがたいです。本人も色々な話を聞いていただいて喜んでいきます。くつろいで過ごせているようです。 ・いつも様々なことを経験させてくださり、ありがとうございます。	引き続き現状に満足せず、支援についての勉強会やケース会議を定期的に行い、支援の質を高めていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後デイサービスこころライフ		2026年 1月 20日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		広さを活かせるよう、定期的に不用品やゴミを廃棄している。	利用しないものは事務所に片付けて子どものスペースが狭くならないようにする。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	10		十分なスタッフの人数を確保している。	引き続き、きめ細やかな支援が行える配置数を維持する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		感覚過敏の特性のあるこどもや、気持ちを落ち着かせるための仕切り部屋を用意している。また、提出物入れのカゴの場所を分かりやすく示している。	てんかんを持っている利用者もいるため、急に倒れた時などに危険なものがないようにする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		季節を感じられるよう、その時期のイベントの飾りをして殺風景にならないよう工夫している。また毎日の掃除と換気を徹底している。	引き続き継続する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		視覚聴覚過敏のあるこどもや、クールダウンする部屋を2つ用意して必要に応じて使用できている。	引き続き継続する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10		定期的に会議の機会を設け、支援前の時間に参加を促している。	引き続き継続する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		年に1度評価の機会を設けており、職員間で共有し、来年度の支援に活かせるよう意見交換をしている。	引き続き継続する。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		支援前後に申し送りと振り返りの時間を設けている。また、必要に応じて改善内容をメールにて全職員に共有している。	引き続き、風通し良く意見交換ができるように機会をつくり、業務改善に繋げる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10		必要に応じて依頼し、職員間で内容を共有して改善に繋げている。	引き続き必要に応じて依頼する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		定期的に社内研修を行っている。また資格取得を積極的に推進し、研修受講の機会を設けている。	引き続き継続する。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		公表している。原案を元に職員間で話しあい、修正を重ねた。	引き続き、プログラムに変更があるときは話しあい、作成する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		アセスメントした内容を職員間で話し合い分析し、計画作成している。	引き続き分析した上で個々にあった計画を作成する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		普段こどもと関わる職員も交えて、定期的に支援について意見交換をしている。	引き続き定期的に話し合う機会を持ち、支援に関わる職員の意見を踏まえた計画書を作成する。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		計画書を職員全員が見られるようにしており、また計画を理解した上での支援をお願いしている。	引き続き、計画に沿った支援ができるように周知する。また達成状況などを見て適宜計画の修正をおこなう。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		適宜使用して、いつでも確認できるようにしている。	引き続き継続する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		保護者からのヒアリング内容、普段の子どもの様子を踏まえて職員間で話しあい、支援内容を設定している。	引き続き定期的な見直し、設定をする。

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		個人ではなく、事業所職員で話し合ったり提案しあいながら実行している。	引き続き継続する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		月の1.2週目作業トレーニング、3週目に運動といったように、週によってプログラムも変えている。また、作業トレーニングの内容を定期的に見直して、固定化しないようにしている。	引き続き、豊かな経験ができるように職員間で提案しあいながら様々なプログラムを用意する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		どちらかに偏らないよう、計画を作成し支援している。	引き続き偏らないようにする。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		支援前に申し送りを行い、保護者からの連絡事項や前回利用時の様子などを共有している。また必要に応じて役割を伝えている。	引き続き継続する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		支援終了後に打ち合わせ、振り返りを徹底し必要な情報は全職員に周知するようにしている。	引き続き継続する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		日々の支援について、5領域ごとに細分化して記録するようにしている。	引き続き継続する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		定期的にモニタリングの実施、見直しを行っている。	引き続き継続する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	10		4つの基本項目を職員全員に周知し、支援を行っている。	引き続き継続する。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		こちらが一方向的に指示するのではなく、子どもの特性によって2択で示すなどして選べるように工夫している。	日常から作業活動まで。こどもが自己選択できる声かけや支援を全職員ができるよう支援の振り返りを随時行う。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		児童指導員、管理者、普段こどもの事をよく理解している職員が参加している。	引き続き継続する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		関係機関と普段より情報共有するよう努めている。	引き続き体制を整えて、必要な時に適切な連携が取れるように関係づくりに努める。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10		学校の先生と、お迎え時に必要な情報は交換しあっている。	引き続き、必要なことは情報交換できる関係づくりに努める。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	2	必要に応じて情報共有するよう努めている。	保護者の方から聞き取りをし、必要に応じて関係機関と情報共有をする。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10		卒業生はまだ少数ではあるが、就労先に情報提供行っている。	引き続き継続する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9	1	必要な助言はいただけるようお願いしている。	引き続き、研修等も行えるよう計画する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	10		地域の子ども食堂のお手伝いやフリーマーケットの出店など、積極的に関わる機会を設けている。	引き続き、あらゆる機関に提案して子ども同士の交流する機会をつくる。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10		必要な際は、参加している。	引き続き必要に応じて参加する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		メールや電話、公式LINEを使って目標の達成進捗状況を伝えている。また、学校と家庭の様子をヒアリングしている。	引き続きコミュニケーションを通して信頼関係づくりに努め、個々に合わせた支援に繋げる。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	2	要望があれば、情報提供を行うようにしている。	要望をヒアリングし、機会を計画する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		利用者全員への案内説明を徹底している。	引き続き、随時説明するように徹底する。



保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		半年に1度の面談の際に、意向を確認する機会を設けている。また送迎時に話す機会を設けている。	引き続き、優先考慮の観点を大切に日々コミュニケーションをとる。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		作成後は説明をして、不明点はクリアにした上で同意いただくようにしている。	引き続き継続する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		気兼ねなく相談しやすいよう、日々のコミュニケーションを大切にしている。また、適切な対応ができるように研修等の機会を設けている。	引き続き、適切な助言と支援ができるよう、職員が自己研鑽できる研修の機会を設ける。また、日々の支援で職員同士が積極的に意見交換をする。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	9	1	要望があった際に、少人数で実施した。	要望があり、来年実施を予定している。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		発生した際は責任者と相談の上迅速に対応、また職員全員に周知して再発防止に繋げている。	引き続き職員同士連携をとり、迅速に対応できるように努める。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		Instagramでの発信、また公式LINEを活用して活動概要や予定を発信している。	引き続き発信に注力する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		十分気をつけている。	引き続き取り扱いに十分注意する。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		子どもの特性に合わせて、ボードや絵カード、アプリを活用している。また保護者とは送迎時や公式LINE、電話等で意思疎通を図っている。	引き続き個々の特性に合わせて、意思疎通ができるように取り組む。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10		地域のフリーマーケットや子ども食堂の手伝いに参加している。また、来年度は地域の方も招くイベントを予定している。	引き続きイベント企画、参加して子ども達が地域と関わりを持てる機会をつくる。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	1	マニュアルを作成し、定期的に見直し、また訓練を実施している。	より多くの職員に訓練を参加してもらうように、日程調整など工夫する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		定期的に実施している。	引き続き、職員間で役割を変えながら精度が上がるように実施する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		保護者へヒアリングし、内容を全職員に周知している。また、てんかん発作が起きた際の対応と緊急連絡先を掲示している。	引き続き、利用者への確認を徹底する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		食物アレルギーのある子どもについて、保護者から医師の指示書の内容をヒアリングして、基本完全除去を徹底している。	引き続き徹底する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		担当職員を決めて、安全計画を作成、訓練を実施している。	引き続き、定期的に実施する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		担当職員を決めて、訓練や研修の計画実施を行っている。	引き続き周知するように徹底する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		ヒヤリハット報告書を作成して、全職員が見られるようにしている。また、再発防止に向けて定期的に職員間で話し合う機会を設けている。	引き続き継続する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		担当職員を決めて、定期的に研修の機会を確保している。また、参加できなかった職員には個別に説明して感想を記入してもらう機会を設けている。	引き続き、虐待防止について理解を深めて発生しないよう徹底する。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10		今の利用者に対しては身体拘束を想定していないが、組織的に基準を決めている。	今後も適正な基準のもと、必要な際は十分な説明を行なう対応をとる。